平成２９年度未来図会議年間テーマ

「はまって、かだって」に始まるノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり
～障がいや個性などを意識することのない、誰もが暮らしやすいまち～

平成２９年度 第５回（東日本大震災後 第８１回）
陸前高田市保健医療福祉未来図会議

平成 29 年 10 月 13 日(金)　13:30～15:30
陸前高田市役所４号棟第６会議室

次　　第

◆テーマ

「小･中･高校生のはまかだ～イマドキ世代のコミュニケーション（居場所）～」

1　開　会

2　挨　拶　陸前高田市　民生部長兼保健課長　菅野利尚

3　内　容

（１）はまってけらいん、かだってけらいん運動によるこころの健康づくり事業

陸前高田市　民生部保健課　保健師　蒲生惠美

（２）イマドキ世代のコミュニケーション

陸前高田市被災絆づくりアドバイザー　岩室紳也

（３）はまかだ思春期教室の実際

陸前高田市被災絆づくりアドバイザー　佐々木亮平

（４）参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ：子どもたちの居場所づくりに向けて

①みなさんが感じている子どもたちのイメージと課題
②子どもたちが人とつながるためにできること

4　その他連絡・アナウンス

5　閉　会

【事務局：陸前高田市民生部】

※次回（第 82 回）：平成 29 年 11 月９日（木）18：30～20：30

◆１１月メインテーマ：　（仮）医療現場から見た陸前高田の健康課題

◆会場：陸前高田市役所　４号棟３階第６会議室

平成２９年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議の予定

○日程　（※テーマ募集中）

H29 年：12 月 15 日（金）　13：30～15：30　（仮）子ども子育てについて

H30 年：　1 月 19 日（金）　13：30～15：30　未定

2 月 16 日（金）　13：30～15：30　（仮）地域支え合い協議体について

3 月 23 日（金）　13：30～15：30　（仮）はまかだスポットマップについて

○未来図会議の趣旨

住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指し、震災からの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。

○大きな方向性

・ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進

「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進

・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践

・市民・他分野機関、他地域との協働、未来図（計画）策定

・居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

○陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c

本日（H29.10/13）の会議の概要

◆テーマ

小・中・高校生のはまかだ
～イマドキ世代のコミュニケーション
（居場所）～

本日（H29.10/13）の会議の進め方①

◆タイムスケジュール

（１）はまってけらいん、かだってけらいん運動によるこころの健康づくり事業
陸前高田市　民生部保健課　保健師　蒲生恵美

（２）イマドキ世代のコミュニケーション
陸前高田市被災絆づくりアドバイザー　岩室紳也

（３）思春期はまかだ教室の実際
陸前高田市被災絆づくりアドバイザー　佐々木亮平

本日（H29.10/13）の会議の進め方②

◆タイムスケジュール

（４）参加者のみなさまと
「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ：子どもたちの居場所づくりに向けて
①みなさんが感じている子どもたちのイメージと課題
②子どもたちが人とつながるためにできること

小・中・高校生のはまかだ
～イマドキ世代のコミュニケーション（居場所）～

平成２９年１０月１３日
未来図会議
陸前高田市保健課　蒲生惠美

●　思春期保健事業概要

（実施根拠　：　学校保健、精神保健（こころの健康づくり・自殺対策）、母子保健）

１　事　業　名　　思春期はまってかだって教室

２　対　　象　　小学校・中学校・高校　…　児童生徒及び教員
希望する団体　…　子（孫）育て世代の団体

３　目　　的　　健康な若者の育成
⇒ 生活上の困難やストレスに直面した時の対処方法を身に付けた若者
お互いを思いやる心のある若者
対話をしながら他人と協調できる若者
性問題行動・性犯罪（加害及び被害）とならない若者

４　伝えること　　性について　…　性に関する誤解や偏見
体の変化 / 男女の考え方の違い / 性感染症・生殖器の疾病とその予防/
恋愛 / 性的マイノリティ / 同性愛　等
いのちについて　…　人権侵害
人間関係（自分・家族・友人・他人）/ いじめ /ネットトラブル　等
性に関する誤解や偏見、人権侵害の解消・防止について
はまってけらいん　かだってけらいん運動
…コミュニケーションの大切さ（人とのつながり/認め合うこと/居場所）

●　関連イベント

健康のつどい（平成２９年９月３日）
市内のいろいろな団体等の日々の健康づくり活動（はまってけらいんかだってけらいん運動）を共有する場であり、健康・人と人のつながりのすばらしさ・大切さを実感し合う催し。

AIDS 文化フォーラム in 陸前高田
（平成２９年１２月３日（日）１１：００～１６：００　アバッセたかた）
HIV/AIDS を切り口に、平成 17 年度から、陸前高田市青年会議所が中心となって保健所や市との協働で開催。震災により一時中断しましたが、平成 25 年度からさまざまな思考を取り入れ再開。全国各地（横浜、京都、佐賀、名古屋）の AIDS 文化フォーラムの参加者も集まる、つながりと継続の大切さを実感できる催し。
平成２８年度からノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり施策の一環として開催。

広報りくぜんたかた７月号　掲載

425

保健だより

子どもの健康「思春期編」

市は、中学校の生徒を対象に思春期保健教室を開催しています。本年度からは、地域全体で、思春期の子どもの健康づくりを盛り上げられるよう、保護者や地域の皆さんにも対象を広げています。

●思春期っていつ？

人のライフサイクルは、小児期・思春期・成熟期・更年期・老年期の５段階に分かれ、思春期は、小学校高学年頃から高校生の時期になります。

●思春期の特徴

思春期は、性が成熟する期間であるため、体が子どもから大人へ変化します。

体の変化に伴い、心も成熟し、周囲の影響を受けながら、１人の大人として自立を確立する時期です。親からの自立の欲求が高まりますが、離れることの不安も同時にあるため、友達や仲間とグループ行動をすることで、安心感を得ようとします。グループ関係の中から、徐々に「自分は自分、他者は他者」という感覚が育（はぐく）まれていきます。

●思春期トラブルの昔と今

思春期には「自立」と自立への不安を埋めるための「依存」という、相反する感情を同時に抱えています。依存できる居場所がない時、昔は非行や暴力という形で居場所を求めました。現代では、インターネット上のつながりに依存することで、トラブルになることもあります。

●はまってけらいん☆

かだってけらいん

話をしたり、聴いたりすることは、安心できる居場所につながります。子どもも大人も「はまってかだること」が大切です。

◆問い合わせ先…市役所保健課保健係（内線２４３）

イマドキ世代のコミュニケーション

～居場所、関係性、依存先をキーワードに～

ヘルスプロモーション推進センター
（オフィスいわむろ）

岩　室　紳　也

健康日本21（第2次）概念図

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

生活の質の向上　　社会環境の質の向上

健康を支え、守るための社会環境の整備

〈ソーシャルキャピタルの向上〉
①地域のつながりの強化
〈多様な活動主体による自発的取組の推進〉
②健康づくりに主体的に関わる国民の割合の増加
③健康づくりの活動に主体的に取り組む企業数の増加
④健康づくりに関して身近で専門的な支援・相談が受けられる民間団体の活動拠点数の増加
〈健康格差の縮小〉
⑤健康格差の実態を把握し、対策に取り組む自治体の増加

絆はどう読みますか

絆（きずな）
（つながり　むすびつき）

絆（ほだし）
（手かせ 足かせ 束縛 迷惑）

ソーシャル・キャピタル（絆（きずな＋ほだし）がある居場所）の三要素

信頼

3つは相互に関連

ネットワーク
（つながり）

規範（互酬性）
お互い様

絆（きずな：つながり、むすびつき）

絆（ほだし：手かせ、足かせ、束縛、迷惑）

ソーシャル・キャピタル（絆（きずな＋ほだし）がある居場所）の効用

健康面の効用

総死亡率 ↓
自殺率 ↓
自覚的健康度 ↑
健康行動 ↑
喫煙率 ↓
運動習慣 ↑

健康以外の効用

行政効率
まちおこし
防災対策
治安・防犯
子育て
教　育
就　労
経済成長
技術革新

ソーシャル・キャピタル（絆〔きずな＋ほだし〕がある居場所）

平成26年度厚生労働科学研究（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあり方に関する研究」
http://www.jphn.or.jp/sub/menu04_10.html

これからの健康づくり、人づくりの考え方

Information　情報
がどんなに正確でも

Education　教育
をどんなに充実させても

Knowledge
知識
が増えるだけ

Communication　対話・関係性・絆（きずな＋ほだし）
を通した課題の実感、感動や経験の共有、
ピア（仲間からの）プレッシャーがなければ

Life Skill
生きる力
健康は育めない

自立は、依存先を増やすこと

居場所、絆（きずな＋ほだし）、関係性が不可欠

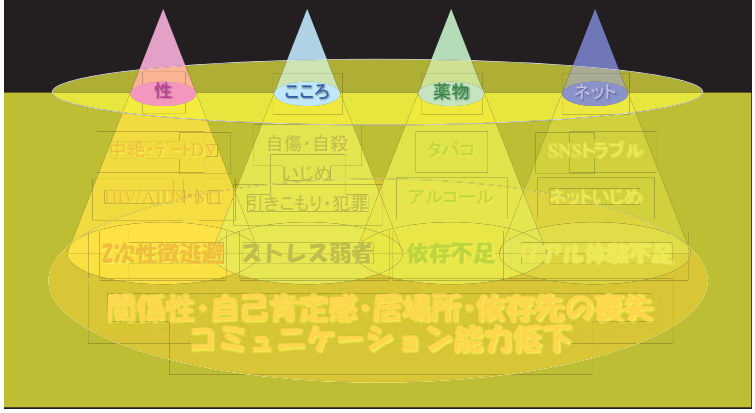
希望は、絶望を分かち合うこと

熊谷晋一郎

https://www.tokyo-jinken.or.jp/publication/tj_56_interview.htm

若者のトラブルの根底にあるもの

問題の根底は？



生きづらさの背景

自己肯定感が低い？

- 自分に自信がない
- 自分が傷つくことが怖い
- 自分は愛されたいが、愛されていないと思う
- 人が自分を好きになるはずがないと思う
- 失敗を避ける
- 不安の塊
- 人と比べてしまう
- 自分が嫌い
- 人見知り、コミュ障と決めつける

生きづらさの背景

居場所がない・関係性が希薄か喪失

- どう見られているかが気になる
- 相手に、周囲に合わせる
- 人間関係が面倒
- 友達が少ないわけではない
- SNSが居場所
- 家に、家族に依存
- 家にしか居場所がない
- 相談するのが苦手
- 無関心

生きづらさの背景

思考パターンがシンプル・コミュニケーション能力が低い

必要とされたい
認められたい
嫌われたくない
相手の反応がすべて
答え、正解を探す
全か、無かの発想
聞く耳を持てない
自分が否定されたと受け取る
すぐ、全否定と受け止める

生きづらさの背景

行動の実際

自分の弱さを見せない、見せられない
寂しさより楽を取る
LINEでは盛り上がるが一緒だと話が弾まない
必要とされていることをセックスで確認
失恋するぐらいなら2次元で満足
気づかいばかりのSNS
目立たないようにする
考えることを放棄する

人は経験に学ぶ

経験していないことは他人ごと

私にとって、セックスをしたいと思うのは、行為そのものに快楽などの魅力を見出しているためというよりも、「自分が誰かに必要とされている」という**自分への需要を確かめ、承認欲求を満たしたい**がためのようです。

私は付き合ってもいない人とセックスをしたことがあります。それも一人や二人ではありません。快楽を得たいがためと思っていましたが、岩室さんの話を聞いて、**居場所**を求めていたのだとはじめてわかりました。女性としての**存在価値**がそこにはあるような気がして、**必要とされている**と感じてしまったりして、そうなっていました。

今はそういうことはしていません。勉強やバイトで忙しいからだと思っていましたが、**自分の居場所**を学校やバイトで見いだせたからなのだと、今日わかりました。

私はあるときから自傷行為をはじめ、同時期に何人かと性的関係を持つようになりました。からだだけでも自分を求めてくれる人がいると思え、一瞬だけでもとても幸せに感じられました。私に「**居場所**」を与えてくれていると思っていました。

私がそのような生活から抜け出せたのは一人の男性との出会いがきっかけでした。彼は周囲に流されることなく、自分の将来を見据え、日々努力している人でした。彼と比べ、今のままではいけないと気づきました。

今では、自分の将来や夢に向かって頑張るための学校が、毎日明るく話しかけてくれる友達との時間が、すべてを話せ、信頼できる彼氏の隣が**自分の居場所**です。

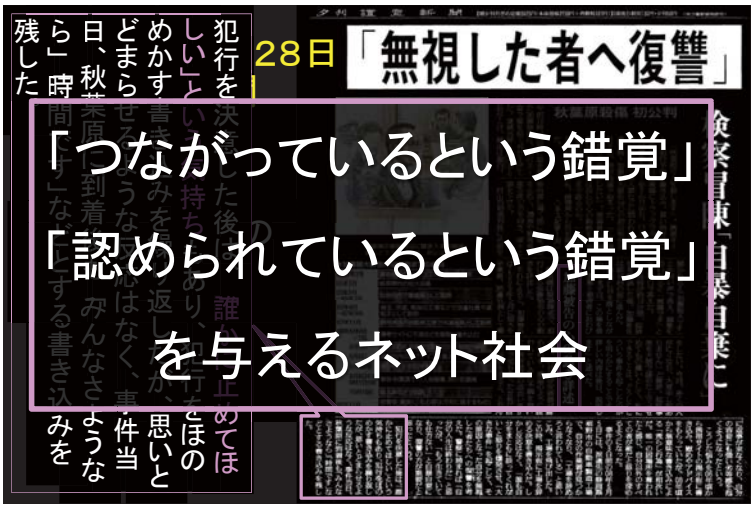
先生の話を伺い、自分を振り返り、今の自分に満足できている、自分はちゃんと変われたんだと気づくことができました。これからも、自分を大切にできるよう、**関係性を大事に**しながら毎日を過ごして行こうと思います。

ONE PIECEに学ぶ生き方

裏を返せば、「助けて」と言えない人が増えている

10巻「第90話 何ができる」

理解できないことの連続



こころを病むとは

仕事が思い通りにいかない、仕事に違和感を感じたとき
その人のものごとの**優先順位・価値観**が

その仕事から離れればいい
周囲の人の常識や思慮分別から

そうだ、仕事は辞めた
大きくかけ離れてしまうこと

と本当に行動しますか？

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

こころを病むとは

あなたの思い通りにならない、社会に違和感を感じたとき
その人のものごとの**優先順位・価値観**が

社会の人々が消えてしまえばいい
周囲の人の常識や思慮分別から

そうだ、その人たちを殺してしまおう
大きくかけ離れてしまうこと

と実際に行動しますか？

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

こころを病むとは

人間関係があなたの思い通りにならないとき
その人のものごとの**優先順位・価値観**が

その人たちから離れればいい
周囲の人の常識や思慮分別から

そうだ、閉じこもってしまおう
大きくかけ離れてしまうこと

と行動しますか？

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

こころを病むとは

人間関係があなたの思い通りにならないとき
その人のものごとの**優先順位・価値観**が

ストレスを解消しよう
周囲の人の常識や思慮分別から

そうだ、痴漢をしよう
大きくかけ離れてしまうこと

と行動しますか？

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

こころを病むとは

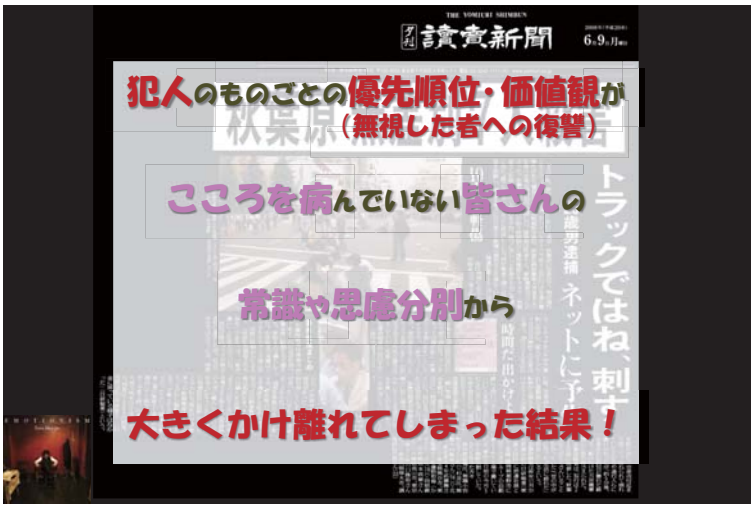
あなたの思い通りにならないことがあったとき
その人のものごとの**優先順位・価値観**が

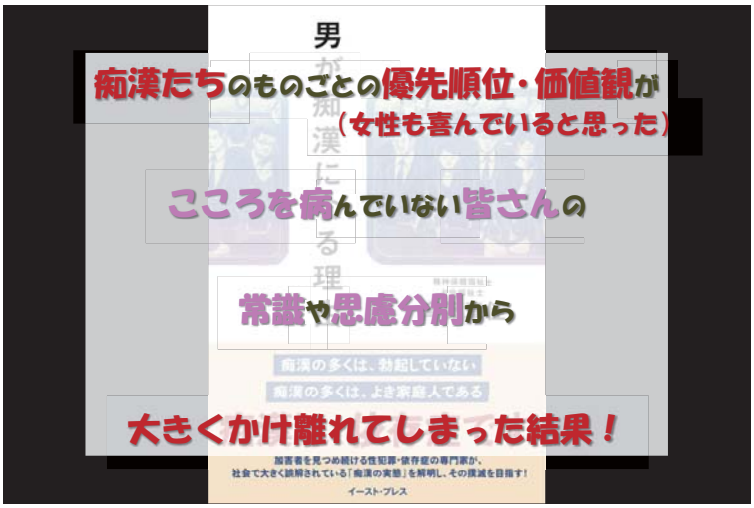
自分が消えてしまえばいい
周囲の人の常識や思慮分別から

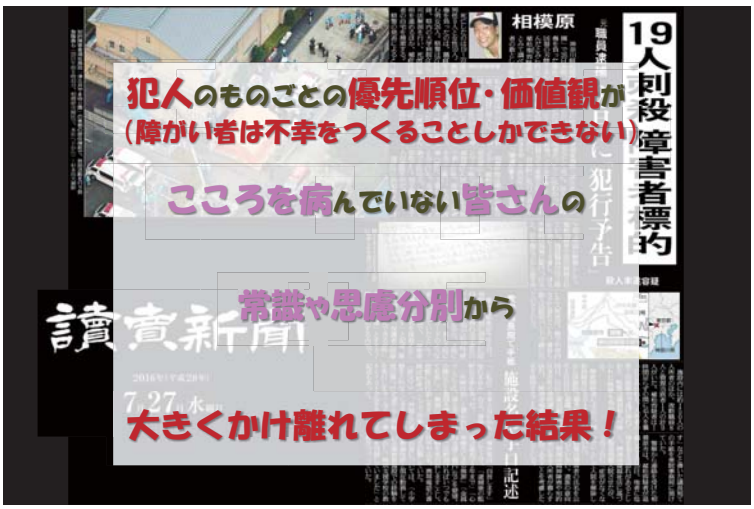
そうだ、自殺してしまおう
大きくかけ離れてしまうこと

と実際に行動しますか？

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生







優先順位・価値観を決めて実行できないと？

本人に

後悔が残る

不全感・違和感がつのる

ストレスがたまる

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

「虐待」「引きこもる」「自殺」につながる ストレスの原因

親子、教師生徒、友人、夫婦という
人と人との関係性の中での

自分の行動が思うように行かず子、生徒、人としての
「プライド」が保てない

自分の失敗や挫折への
「こだわり」「違和感」が解消できない

自分ではなく、親、教師、友人、相手が悪いという
「被害者意識」が解消できない

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

余裕がない (ストレスに対処できない時)

本当は目標のある生活をしたい

↓

実際には挫折、失敗、失恋

(その人に) ↓

客観性がない **経験**がない 情報がない

志(こころざし)がない 余裕がない 想像力がない

↓

ストレス

↓

ストレスからの逃避＝うつ、虐待、引きこもる

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

余裕がある (ストレスに対処できる時)

本当は目標のある生活をしたい

↓

実際には挫折、失敗、失恋

でも **関係性**
(きずな **絆** ほだし)
居場所 があれば

↓

客観性が **経験**が 情報が

志(こころざし)が 余裕が 想像力が 生まれ

↓

ストレスをためずに

↓

切れない、引きこもらない生活が送れる

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

治療から見た「こころの病」

統合失調症、双極性障害(躁うつ病)、中等度・重症うつ病

→ **薬物療法**、カウンセリング、**環境整備**

↑

↓

不安障害、神経症、軽症うつ病、新型うつ、虐待、切れる、思春期の挫折

→ カウンセリング、認知行動療法、励まし、ほめる
家族へのアプローチ、**環境整備**

日本うつ病学会治療ガイドライン、春日武彦先生改変

医療法人社団
成仁病院顧問
春日武彦先生

自分のうつ病を振り返る

中学ではトップクラスの成績。

しかし、わざわざ選択した県外の進学校では成績は最下位レベルで、とりわけ数学が全くできず、医者になることをあきらめなくてはならなかったのです。

人生で初めての挫折でした。

高校3年生になっても、自分がどういう道に進むべきか全くわからず、次第にふさぎがちになり、気づいたときにはうつ病になっていました。

岩室先生の話を聞くまで、私は原因は挫折にあると思っていましたが、先生のお話を聞いて、当時、誰にも相談することができなかった自分のコミュニケーション能力の低さにあったのだなぁと思い直しました。

自分のうつ病を振り返る

また、私はうつ病を薬で治したのですが、最近はこのやり方が間違っていたのではと思うことがよくあるのです。

というのも、未だにうつのような症状が起きることがあり、結局は何も解決しているように思えないからです。

だから先生が薬での治療よりも環境を整えることが大事だとおっしゃったときはとても感動しました。

分かってくれている人がいるんだと思いました。

彼氏はいませんが（笑）、家族も素晴らしい友人もいます。

辛いときはもっとどんどん相談していこうと思います。

もちろん、会話で（笑）。

本当に有難うございました。

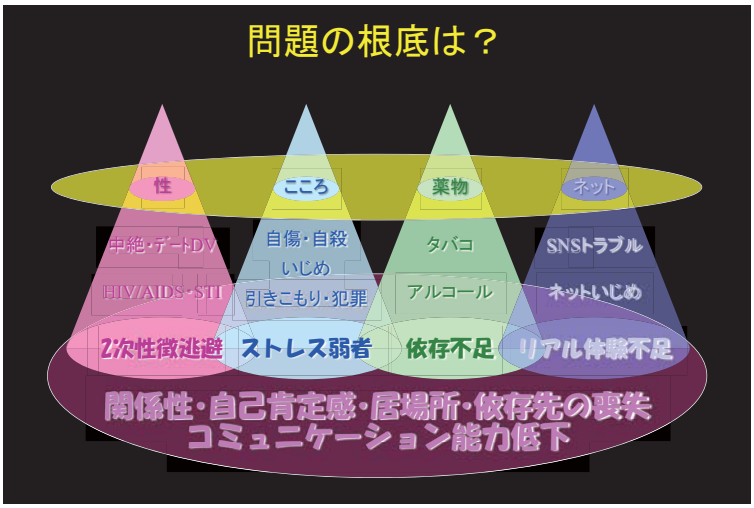
ダメ。ゼッタイ。

は

ダメ？　絶対？

SNSは依存先にもなる

自己完結型情報伝達手段



どうすれば、若者は

生身の「つながり」

を構築できるか？

平成２９年度　第５回（震災後８１回）陸前高田市保健医療福祉未来図会議

思春期はまかだ教室の実際

平成29年10月13日（木）14:15～15:25
陸前高田市役所

岩手医科大学
衛生学公衆衛生学講座
助教　佐々木亮平

事前オリエンテーション

本日の内容

- **会うこと、話すことの大切さ**
  - →3.11後、気づかされた「はまってけらいん、かだってけらいん運動」
  - →自分の行き詰まり、限界を認めるからこそ、他者との交流、連携・協働
- **違い、多様性を知り、他人事意識から自分の事意識へ**
  - →年齢、性、身体、心、住む場所、生活環境、文化、背景で異って当然
  - →もし「自分のこと」だったらどうだろうか･･･
- **いろいろな「ところ」に自分の居場所・通い場所を**
  - →家庭の居場所、学校の場所、クラス、部活、友人・仲間、地域・近所･･･
  - →そもそも自分は「つながろうとする人」だろうか･･･

○本音に迫りたい＆楽しみたい

- 保健講話や性教育って、聞きたいようで恥ずかしい･･･そんな本音が見え隠れします。
- 多くの子どもたちが「めんどうだな」、「かったるいな」、「なんでこんな時間があるのかな」･･･そんな気持ちで体育館などに集められます。
- そこへ思い切って真正面からアクセス！そして思わず笑っちゃうブレーンストーミング！
- ちょっとでも、今日はなんか違うかもと思ってもらえたらOK、会うこと、話すこと、語ることの大切さを伝えたい。

○親・教師（大人）として･･･

- なんとなく**心の準備ができていない･･･**
- **子どものまま**であって欲しい!?
- 子どもたちの発達とは別に**こちらの論理**で進めたくなってしまう･･･
- **否定**的、**禁止**的、**指導**的態度をとりがち･･･
  - ⇒　性に関する欲求・疑問がなくなるわけではない（**根本的な解決にはならない**）

言葉や行動の動機に答えたい！

なぜ？大人がそう言うのか考えられること！

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり

誰かに会うこと＝居場所づくり

はまってけらいん
・・・みんなで集まって
かだってけらいん
・・・お話をしましょう

日々の生活の中（学校）で、できる
居場所づくり、健康づくり

見える被災＝仮設住宅
見えない被災＝地域

見えない孤立
＝公営住宅、高台、防集・・
（居場所の喪失）

性ときくと…

○中３年生が考える「中学生の性」のイメージ（男子抜粋）

○「性」に関するご意見（男子）

- 不健全・・・ ⇔ 健全
- まだ早い、発展途上
- 友情
- 勉強
- エロ本、変なことを考える
- 恋、同性愛
- 軽視するものでない

○中3年生が考える「中学生の性」のイメージ(女子抜粋)

○「性」に関するご意見(女子)

- 部活と勉強の両立
- 友情成り立たない
- 好きな人できる、つきあう
- 成長期、思春期、発情期
- 保健体育
- あぶない、あれてる、軽い気持ちでしてる
- やること、性交

○事前アンケートのネライ

◆事前に動機付けを行う！目的意識を高める！

Q:「どんなことを聞いてみたいですか～？」
自由記述、想像してみる、問題意識をもつ

⇩

◆結果的にこちらの論理になるかも知れないが、
双方向のやりとりにより、理解度、印象度が高まる！

もしかしたら、一番大切かも？

○性を考える上での簡単なルール・姿勢

- 自分をふりかえり、見つめなおすチャンス♪
- 表現し、認める(否定せず、共有を)
- 必ず、**楽しさ(ユーモア)をもつ**
- それでも決して「ムリ」はしない(DV等経験の違い)
- 同姓愛(男⇔男、女⇔女)を知る
- 性同一性障害(もって生まれた身体の性と、備わっている心の性の違い)を知る

○『性』という漢字のもつ本来の意味は・・・

心 ＋ 生 ＝ 性

⇩

いきいきしていて、スバラシイっ!!

恋のすばらしさ(経験を語る)

ササキリョウヘイ41歳！

○私の初恋(中1の夏)

- ひと夏の恋のはずが、告白できず・・・

⇩

28年前…
10月30日(日) 9:20～
好きです！

プレゼントはゴルフ姿のワニの貯金箱！？

⇩

結果は空振三振、バッターアウト
また来年～^^ノ

中学校入学式の朝
物心ついたときから坊主頭

身長148cm

172cmの先輩に恋

○恋は自分と向き合うチャンス！

相手と一緒に自分も好きになっていく！
・・・オレって、「ここ」がカッコイイじゃん♪
・・・私の「ここ」がカワイイよね♪

チョット勘違いや
思い込みでもＯＫ！
強みを大切に♪

◆よって、本日の結論
自分及び家族や友人、先生、先輩、地域の人等とのコミュニケーションを大切にしよう！

非言語的
コミュニケーションも！

２次元にはまってますか？（リア充、非リア充）

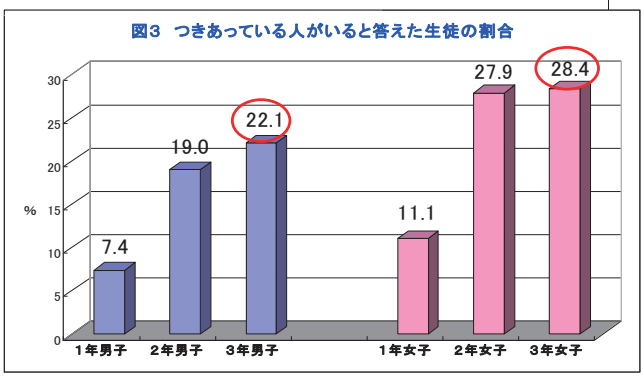
→10～20%

YES（はまっている、好き）
NO（やっていない、興味ない）

リアルにつらい（失敗）経験があることの大切さ

つきあったら、なにがしたい？

○K地区の高校生のみなさんへのアンケート結果から



がまんさせた方がイイ男になる？

YES（そう思う）
NO（関係ないと思う）

ストレス（苦労、苦難）を乗り越える力

思うだけでいい

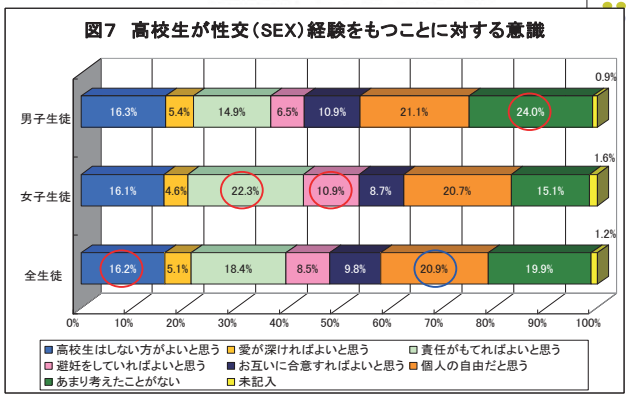
見ているだけでいい

…声をかけたい、ふれたい

そういう思い（欲求）は人として健全

○性交経験は個人の自由？

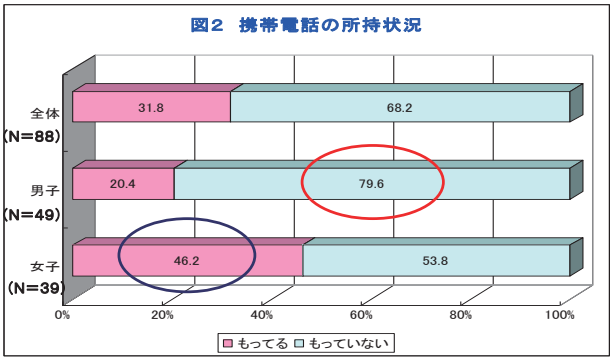
（2008.10　K地区高校生対象アンケート結果・・速報値から抜粋）



32

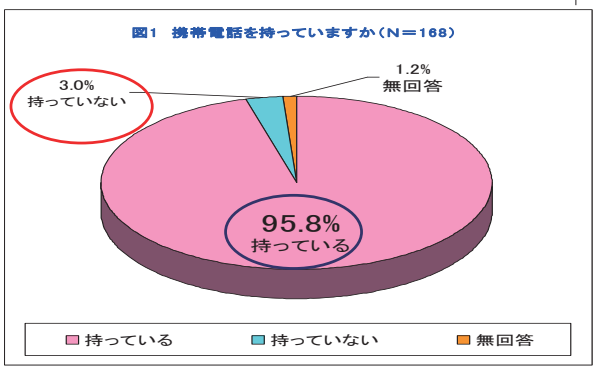
子どもたちの
感性・言語に応える

○中３年生に聞きました。携帯電話を持っていますか・・・？



34

○K地区の高校生１年生は ほとんどの方が持っています・・



35

メール、LINE、SNS

何分、何秒待てますか？

…管理⇔監視？される関係性

人としてのつながり
人としての力を失っていないか

実施後のアンケート

○事前後アンケートのネライ

◆事前（動機付け）も含め考え、記載することでその本人へフィードバックされる（刷り込み効果）

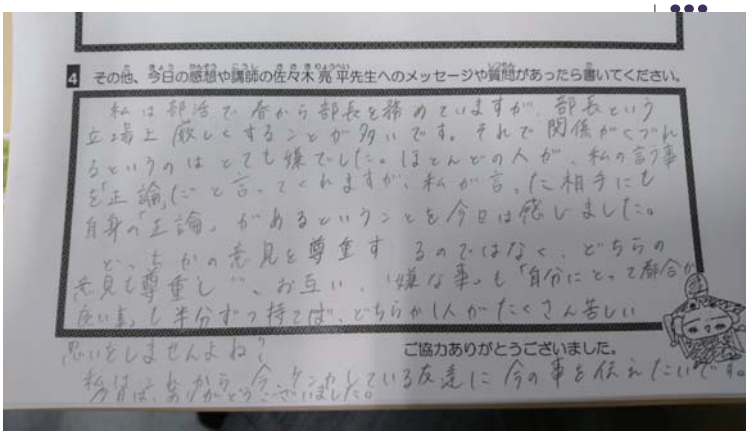
1　印象的だったこと（感覚的なところ）
2　初めて知ったこと（知識として）
3　もっと知りたいこと（今後の意欲）
4　今日からあなたにできること
　教室を出た瞬間、「あの話はあの話」にならないように自分の行動計画宣言！

◆某中学校3年生の感想（あなたにできそうなこと）

・私は兄と妹と日本舞踊を習っています。時々地域でボランティア活動をしています。そこでの出会いやふれあいを大切にしていきたいと思います。
・命を大切にする。
・もし彼氏ができたら、ちゃんとした交際のあり方についてや性交について話し合うこと。日頃からコミュニケーションをとること。
・人に優しくすること。コミュニケーションを大切にする。
・ちゃんと考えて行動すること、コミュニケーションをとって居場所作りをすること。
・隣に座るだけでいいので誰かの支えになること。
・自分の体を大切にする、相手と対等な関係になる、自分がされて嫌なことは他人にしないこと、一人で抱え込まずに相談すること。
・人とコミュニケーションをとること、人間関係を大事にすること。（6）
・これからもし彼氏ができたりしたら片方だけにお金を払わせたりしないようにしていきます。
・家族としっかりと向き合って話をする。自分の意見を言う。堂々としてる。活動に参加したり見たり聞いたりする。相手のことを考える。

◆某中学校3年生の感想（あなたにできそうなこと）

・将来のことを考えて行動する。
・命を大切にすること。・一生懸命生きること。
・いろいろな人と対話して少しでもコミュニケーション能力をつけること。
・何にでもチャレンジしてたくさん学ぶこと。コミュニケーションを大事に生活していく。
・人に思いやりの心を持って接すること。人と対等な関係を作っていくこと。積極的にコミュニケーションをとること。ちゃんと判断すること。
・先のことを考えて生活すること。嫌なことでもちゃんと信頼できる友だちや先生に打ち明けること。ちょうど良いコミュニケーションをとること。
・先のことを考えて行動する。
・相手のことや周りの人などの気持ちを考えて行動する。（2）
・人とコミュニケーションをとること。性同一性障害の人に偏見をもたないこと。命を大切にすること。
・今はあまり「居場所がない」とも意識していないけれど、今回の話で「居場所」を探すことが大事なことだと思った。
・ちゃんと責任を持って生きること。DVは絶対だめなこと。



○外部講師の良さとfollow体制

◆講演会を「遠い日の花火」にしないために！

①事前の準備（ここで8割決まる？）
②当日（あくまでキッカケ）
③そして継続したfollow（本物にする）　・・・の
⇒　3本立てが重要

⇩

それぞれのつよみを活かす！
学校、家庭、地域、関係・専門機関の協働！

『生命（いのち）は』　作：吉野 弘

生命（いのち）は
自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい

花も
めしべとおしべが揃（そろ）っているだけでは
不充分で　虫や風が訪（おとず）れて
めしべとおしべを仲立ちする

生命（いのち）は
その中に欠如（けつじょ）を抱き
それを他者から満たしてもらうのだ

世界は多分　他者の総和（そうわ）

しかし　互いに
欠如（けつじょ）を満たすなどとは
知りもせず　知らされもせず
ばらまかれている者同士
無関心でいられる間柄（あいだがら）
ときに　うとましく思うことさえも許されている間柄
そのように　**世界がゆるやかに構成されているのは**
なぜ？

花が咲いている
すぐ近くまで
虻（あぶ）の姿をした他者が
光をまとって飛んできている

私も　あるとき
誰かのための虻（あぶ）だったろう

あなたも　あるとき
私のための風だったかもしれない

ご静聴ありがとうございました。

中学生としてだけでなく
あの人と会えるという気持ちや
時間を大切に

これからの健康や人との関係性を
一緒に考えていきましょう！

（３）参加者のみなさまと
「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ：子どもたちの居場所づくりに向けて

①みなさんが感じている子どもたちのイメージと課題

②子どもたちが人とつながるためにできること

みんなで「はまかだ」①

テーマ：子どもたちの居場所づくりに向けて

①みなさんが感じている子どもたちのイメージと課題
・話が苦手＋聞いて理解することが苦手かな、話すことが大好きな子もいる、上手な子もいる
⇒そういう子はとても上手（世渡り上手？）
・ゲームのしすぎで話すのが苦手？
・昔：子供同士でよくケンカして仲直りした
・今：すぐに親が出てきてしまう（子供同士がない）
・最近の子供＝最近の親、親も余裕がない、ほめ方が子供にプレッシャーを与えることもある
・陸前高田：小中高の上の世代が少ない、

②子どもたちが人とつながるためにできること
・部活、学童、それにも行けない子もいる
・本当に好きなことを部活でできていない子もいる・・・
・世代間交流：高齢者と子供、最近の高齢者は気を遣うから嫌だ？
・孫と遊ばなくでも楽しい　⇒　高齢者と子供が一緒に集える場所をセットに
　　⇒　子供と高齢者のサロンに予算をつける
　　どちらも同じところに設置する

みんなで「はまかだ」②

テーマ：子どもたちの居場所づくりに向けて

①みなさんが感じている子どもたちのイメージと課題
・忙しい（親も子も）、毎日練習、土日は練習試合、かわいそうだった・・
・たまの休みにゲーム、スマホ、集まっても黙ってゲーム
・食事しながらLINE、家族内でのTVのチャンネル争いもない
・外で遊ばなくなった、天気が悪いと送迎付き、集団登校もない
・震災後：校庭もない、移動時間長い、我慢強い、ワガママ言わない、やさしい子たちだった
　⇒言いたいことも言わないでいたのでは、反抗期ない？つらさとの向き合い方をfollow

②子どもたちが人とつながるためにできること
・地域の人に挨拶している、地域の人に声をかえられている、ボランティア、お祭り
・そもそも遊ぶ場所がない、最近、アバッセのバスケットゴール、東屋にたまっている
　⇒東屋をいっぱいつくる
・子どもたちを見かけない、いない、人の子をしかれない、顔をあわせない
・すごくなんでもお手伝いさせるお母さんの子：近所のアイドルになっている
　⇒自分から声をかける能力があるよね
　⇒親がたいへんだから、なんでも子供にやらせることが大事
　　結果、なんでも手伝ってくれる子になる

みんなで「はまかだ」③

テーマ：子どもたちの居場所づくりに向けて

①みなさんが感じている子どもたちのイメージと課題
・そもそも、まわりに子供がいない、数が少ない、接する接点が少ない
・h28年度出生数100名しかいなかった
・たまにいる子どもたちに声をかけてもシャイ
　⇒学校と家族以外に出会う人がまったくないのが要因？地域をしる機会限られている？
・子供：知らないところに行きたがらない、やる気がない？居場所がない？
　⇒物理的な居場所だけでなく、心の居場所が必要（承認されること）、自己肯定感が

②子どもたちが人とつながるためにできること
・部活、学校忙しいけど：震災前、他校との交流、中高生のボランティア、資源ゴミ回収
　⇒リサイクル活動が地域の人と関わる機会になっていた
・地域の人は子供が来るのを待っている
　⇒地域と子どもたちがふれあう機会を設ける
・自己肯定感について：コミュニケーション、家庭でほめられたり、何かをさせて、家族や夜会の役に立っているということが大事
　⇒子どもたちに何かをさせることが大事
　　例）チャリティー企画をやってみる、今までやってきたことを再認識しよう
　※行政も意識して活動できる場を増やしていく

みんなで「はまかだ」④

テーマ：子どもたちの居場所づくりに向けて

①みなさんが感じている子どもたちのイメージと課題
・思春期何を考えているがわからない、怒られる？機嫌わるい？
・今の子供の方が素直で穏やかかな？　中高生が時間がない、朝練帰宅後も宿題
・会話に電波が介在して、顔をあわせない、指先だけでコミュニケーション
　⇒ネットも居場所、リアルな友達関係をネットに、学校を辞めるとリアルがなくなる
・社会の一員だという自覚がないのかな？
　⇒例）部活：控え選手は何を励みにがんばるの？仲間と一緒にいる楽しみ、仲間からはみ出してしまう不安感　居場所が一箇所しかない（部活）と不安になる
・相談できない＝コミュニケーション能力が低い？
　まわりを信頼していないから相談できない？　最初の一言が出てこない（経験のなさ、自信のなさ？）

②子どもたちが人とつながるためにできること
・夕方、子どもたちに物理的な場所を提供する（アバッセなど）
・お祭りをみんなでやる：子供から高齢者まで楽しくやる
　⇒実はちょっと強制してる？「行きなさい」、そういう強制も大事ではないか
　　強制のよさ（経験させることの意味）
　　信頼、ネットワーク、お互いさま：このサイクルをつくれる仕掛けをしましょう

次回（平成29年度第6回）未来図会議予定

◆日時

平成29年11月9日（木）18：30~20：30

◆メインテーマ

（仮）医療現場から見た陸前高田の健康課題

※ご意見発表募集中、事務局までお知らせください

◆会場：陸前高田市役所4号棟3階第6会議室

平成29年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議（月1回）の予定

○日程（※H29. 3月アナウンスから変更あり）

H29年：12月15日（金）　13：30～15：30
H30年：　1月19日（金）　13：30～15：30
　　2月16日（金）　13：30～15：30
　　3月23日（金）　13：30～15：30

陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c

平成２９年度　第４回（震災後８０回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「　だれもができる住みやすいまちづくり　～自殺予防対策　」
日　時：平成２９年８月１８日(金)　１３：３０～１５：３０
場　所：陸前高田市役所４号棟第６会議室
参　加：35 名 12 団体
資　料：下記にアップ
http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html

１　挨拶（陸前高田市民生部長兼保健課長　菅野利尚）

自殺者数は全体としては減っているが、若年層の自殺が増え、自殺者数がいまだに多いといった問題点がある。この状況において、国から市町村に対して自殺対策計画の制定が求められている。

陸前高田市は震災後、はまかだ運動を推進し、地域づくりを重視してきた。震災を経験した陸前高田市の住民だからこそできることがあると思うので本日も活発な議論をお願いしたい。

２　内容

⑴　未来図会議が目指してきたこと
陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー　岩室紳也
⑵　自殺対策大綱と県の役割について
上席保健師兼精神保健福祉相談員　菊田　誠子
⑶　自殺予防とはまかだについて
陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー　岩室紳也
⑷　参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだってけらいん」
グループワーク
テーマ：はまかだ（自殺対策）につながる工夫、仕掛けを考える
⑸　その他連絡・アナウンス

⑴　未来図会議が目指してきたこと
（陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー岩室紳也）

自殺と聞くと自分は関係ないと考えたり、自殺者が身内にいると口に出しづらく考えてしまう。しかし、国も健康日本２１の第２次計画で、早期

発見、早期対応の二次予防だけではなく、そもそも一人ひとりが自死しない一次予防を再認識することの重要性を述べている。住民、関係機関、行政が様々な一次予防の取り組みを行うことが求められている。

中学、高校の教科書でヘルスプロモーションの理念が紹介されている。ハイリスクアプローチは効率的だが、本当に必要な対応はポピュレーションアプローチであり、地域の人と人のつながりを強化することが重要である。

人と人をつなぐ絆（きずな＋ほだし）の結果、信頼、ネットワーク、お互いさまが醸成される。人と人がつながることで、健康度が上がり、自殺率が下がり、総死亡率も低下する。

⑵　自殺対策大綱と県の役割について

（上席保健師兼精神保健福祉相談員　菊田　誠子）

岩手県の自殺率は、ピーク時よりは減少しているが、全国ワースト２位である、そのなかで、様々な対策が必要となる。

自殺対策推進センターの主要な役割としては市町村の自殺対策計画策定への支援が挙げられる。その他の対策としては、久慈モデルを推進するほか、自殺対策大綱に盛り込まれた様々な施策についても推進していきたい。

自殺対策大綱においては国、自治体、住民それぞれの役割分担を定めているほか、次のような内容が定められている。

自殺総合対策の基本理念は、誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すことである。そのためには生きることの阻害要因を減らし、促進要因を増やすことが必要である。

自殺の現状と自殺総合対策における基本認識とは、自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、自殺者数が減少してはいるが、年間自殺者数２万人以上の非常事態がいまだ続いているということと、自殺対策には地域レベルでの実践が必要であり、そのために検証可能な計画を作成する必要があるということである。

自殺総合対策の基本方針のポイントは生きることの包括的支援として自殺対策を推進し、関連施策との連携を強化し、対応の段階に応じてレベルごと（法律レベル等）の対策を効果的に連動させることである。

自殺総合対策における当面の重点施策のポイントは地域レベルでの実践的な取組への支援を強化することであり、適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるための環境を整え（専門職の配置等）、社会全体の自殺リスクを低下させることである。

各市町村には自殺対策計画の策定が求められているが、国から計画策定

のガイドラインは９月上旬に示される予定となっており、内容はいまだ不明である。

社会全体のリスクを低下させるための具体的な目標としては、国民の３分の２以上が、公的な相談先があることやゲートキーパー制度の存在を知っていることが挙げられている。

岩手県の自殺対策プランは現在策定中であるが、岩手県では自殺者が多い世代への支援を強化したいと考えている。

⑶　自殺予防とはまかだについて

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー　岩室紳也

自殺対策には様々な予防対策（一次、二次、三次予防）が必要だが、本日は出席している皆様に直接関係している一次予防について話したい。

自殺そのものをなんとかしようとすると、気が付けば、原因を分析した結果、原因と関係ない人にとっては、ますます他人事となってしまう。

文部科学省の研究機関の研究報告では、いじめ経験は被害経験、加害経験ともに９割以上となっていることから、早期発見、早期対応の視点で取り組む限り、自殺対策は解決しないことが明らかになっている。

実際、うつ病になった人が訴えている「眠れない」などの一人ひとりの症状からの早期発見については、プロの精神科医であれば聞き出せるが、一般の人に気づけというのは無理である。

こころを病むとは、その人のものごとの優先順位、価値観が大きく周囲からかけ離れてしまうことである。

自殺対策の中で、重症うつの人たちにとって薬物療法は必須であるが、軽症中等症うつの人に対しては地域の人の果たす役割が大きい。

若者の SNS では SOS にならない、直接会って話しをする必要がある。

自殺統計は、男女差、世代間の差で見る必要がある。年配者の自殺がある時期から減少している、原因は介護保険で人と接する機会が増えた人が多いからだと思われる。さらに、震災後、若者の自殺者が減っているのは震災を契機に、人の命の大切さが意識され、人と人とのつながりが強化されたからであると思われる。

⑷　参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだってけらいん」

グループワーク

テーマ： はまかだ（自殺対策）につながる工夫、仕掛けを考える

資料：みんなではまかだ①～⑤参照

①今日の感想
②ご自身の活動で改めて自殺対策になっていると気がついたもの１つ
※ハイリスク対策、二次予防ではなく、一次予防の視点で･･･
※そのことをさらに進めるための工夫や仕掛けは･･･
※今の活動を、今日以降、さらに意識して進められるように･･･

◆グループワーク結果概要
一次予防のプロから学ぶ「はまかだ」推進のコツ
・コミュニティ形成について
⇒新しい地区と周辺地区を対象に行事を開催する（ネットワーク）。
⇒知っている人が間に入ることで、参加しやすい雰囲気を作る（信頼）。
・集客について
⇒知り合いが、知り合いを誘う（ほだし）。
⇒「よく来たね」と声をかける（信頼）。
・企画について
⇒ターゲットの年代を設定する（グループを作りやすい
⇒メディアの活用
⇒コーディネーターへの労い（得意な人が得意を広げる）
・その他
⇒地道に続けること（ほだし、ネットワーク、信頼）
⇒みんなと話す機会を設ける、そこで人とつながる工夫（職場内でみんなで話す）
・若い人が人とつながるためには、ネット環境が必須ではないか
⇒ネットから電話して
・学校教育の中で小学校から伝えていく
⇒生きること、死ぬことを伝える
・人と人とをつなげることがやみつきになる
・顔見知りになっているから盛り上がる
⇒スタッフとして初回参加者同士の共通点を共有する、趣味が合う同士をくっつける
・笑わせることが得意（天性？）
⇒気取らない、嘘つかない、オープンに
・楽しい場づくりをする、楽しいと続けられる
⇒歌を年代にあわせる、もうすぐビートルズ世代も高齢者に？
・外部から入ってもらってイベント、企画をする

⇒学生さん（元気なくなっている）に仮設を歩いてもらうことで、
お互いに元気（プラス）になっている
・公営住宅の集会場を使ってもらう
・声かけについても一人でやらず、アプローチの方法を変える

◆次回（第８１回）：平成２９年１０月１３日（金）１３：３０～１５：３０
メインテーマ（案）：未定（テーマ募集中）
会場：陸前高田市役所　４号棟３階第６会議室
（※平成 29 年 9 月はお休み）

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりイベント

ともに生きる

誰もが住みやすいまちに

はまってけらいん　かだってけらいん

AIDS文化フォーラムin陸前高田

2017 12/3(日) 開催時間 11:00-15:00 開催場所 アバッセ たかた

主催：AIDS 文化フォーラム in 陸前高田 運営委員会

（一般社団法人 陸前高田青年会議所・陸前高田市・岩手県 大船渡保健所・特定非営利活動法人 陸前高田市支援連絡協議会 Aid TAKATA（陸前高田災害 FM））

公益財団法人公益財団法人エイズ予防財団（平成29年度エイズ予防財団助成事業）

2017年10月16日現在

AIDS文化フォーラム in陸前高田

ともに生きる　～誰もが住みやすいまちに～

2017.12.3(日)　プログラム　陸前高田災害FM(80.5MHz)　で生放送

ネットでも聞くことができます　（ http://csra.fm/blog/author/rikuzentakata-fm/ ）

時　間	内　　容
11:00～11:15	**オープニング**
11:20～12:20	陸前高田災害ＦＭ「はまってけらいん、かだってけらいん」公開収録① **HIV/AIDSとLGBTの今を考える** **ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの視点から** NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス　代表理事　高久陽介 陸前高田市　市長　戸羽太 ヘルスプロモーション推進センター　代表・医師　岩室紳也
12:25～13:25	陸前高田災害ＦＭ「はまってけらいん、かだってけらいん」公開収録② **今どきのネットトラブル** **デートDV、LINE、Facebook、Twitterのトラブルの背景** ウィメンズクリニック・かみむら（岡山県）　院長（産婦人科医）　上村茂仁 岩手県大船渡保健所　保健師　山本詩織 岩手医科大学　助教　佐々木亮平
13:30～14:00	LGBT＆AIDS＆デートDVなんでもクイズ
14:00～15:00	LIVE　みんなで歌おう　コラボコンサート **伝承～あなたと私でつなぐ未来～** まっと（※陸前高田市米崎町出身） 住田音楽サークル音蔵（ねぐら） 一般社団法人　陸前高田青年会議所　理事長　高橋勇樹

あなたがいるから私も生きていける
だから普段の日常を大切に過ごそう
あなたの命は皆の命
皆の命はあなたの命
だから守ろう自分を
それがあなた（皆／未来）の為

陸前高田青年会議所では、震災の記憶を風化させないために、次代へ「伝えていくべきこと」を、このようなメッセージにまとめました。このテーマをもとに生まれた楽曲を発表し、みんなで歌います！

はまってけらいん、かだってけらいん

陸前高田市を元気にする健康番組　陸前高田災害FM(80.5MHz)で毎週木曜日、午後２時から放送中！

岩手医科大学　佐々木亮平、ヘルスプロモーション推進センター　岩室紳也、陸前高田災害FM　金野由美子

★会場ボランティア募集中★

当日の会場運営をお手伝いいただける方は、右のQRコードから申し込んでください。→→→→→→

◆主　催

AIDS文化フォーラム in 陸前高田運営委員会（一般社団法人陸前高田青年会議所、陸前高田市、岩手県大船渡保健所、特定非営利活動法人 陸前高田市支援連絡協議会　Aid TAKATA（陸前高田災害FM））

◆後　援

大船渡市、住田町、大船渡市教育委員会、陸前高田市教育委員会、住田町教育委員会、岩手県立高田病院、医療法人希望会希望ヶ丘病院、一般社団法人気仙医師会、公益社団法人岩手県看護協会大船渡支部、陸前高田市歯科医師団、気仙薬剤師会、（株）東海新報社、岩手日報社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、 FMねまらいん、陸前高田グローバルキャンパス

♪Special Thanks♪（会場協力）アバッセたかた

お問い合わせ先　〒029-2292　陸前高田市高田町字鳴石42番地5
電話：0192－54－2111　FAX：0192－55－6118　E-mail：kenko@city.rikuzentakata.iwate.jp
担当：陸前高田市民生部保健課保健係　内線（242）

表紙イラスト：母袋秀典

平成29年度 子ども虐待防止講演会

「がまんする力は どのようにして育つのか？」

「子どものこころの豊かな育ちと育み･･･」をいっしょに考えてみませんか？

参加 **無料**

［日時］11月12日(日曜日) 午前10:00～正午

［講師］東京学芸大学教授 **大河原美以先生**

［会場］岩手県立福祉の里センター 1Fふれあいホール

＊大河原先生のご紹介

＊ 東京学芸大学総合教育科学系 心理学講座 教授

＊ 臨床心理士 家族心理士 学校心理士 教育学博士

＊主な著書

＊ 子どもの「いや」に困ったとき読む本 (2016年大和書房)

＊ ちゃんと泣ける子に育てよう (2006年河出書房新社)
一親には子どもの感情を育てる義務がある

他にも多数あります

みなさまの ご来場を お待ちしております

お問い合わせ･･･

[主催] 社会福祉法人大洋会 児童養護施設 大洋学園
児童家庭支援センター大洋

[後援] 岩手県一関児童相談所
沿岸広域振興局保健福祉環境部大船渡保健福祉環境センター
大船渡市 陸前高田市 住田町

[事務局] 児童家庭支援センター大洋 0192－21－3130

第1回 気仙認知症フォーラム

絶望…なんて、してられない！

2017/11/1

14:00～17:00

大船渡市 リアスホール
マルチスペース

13:00 開場
（入場無料 自由席150席
申込不要）

一関市藤沢病院
病院事業管理者 佐藤元美

認知症介護研究・研修東京センター
研究部長　永田 久美子

こんの神経内科・脳神経外科クリニック
院長　紺野 敏昭

東京大学高齢社会総合研究機構
特任教授 秋山 弘子

認知症当事者の会
福田　人志 氏

主催:一般社団法人 未来かなえ機構　　共催:大船渡市 陸前高田市 住田町

お問い合わせ先 ： 一般社団法人 未来かなえ機構
住所:岩手県気仙郡住田町世田米字川向96-5 TEL:0192-22-7261
営業時間:平日9:00～17:00 休日:土日/祝日

次　第

14:00～ 挨拶
(未来かなえ機構 代表理事 滝田 有)

14:05～ 「当事者本人の語りから認知症ケアを創る」
(福田人志・永田久美子氏)

15:00～ 休憩

15:15～ トークセッション
(演者全員)

16:25～ 会場とQ&A

16:45～ 気仙への提案～まとめ～
(秋山弘子教授)

17:00～ 閉会

認知症フォーラム開催にあたり

一般社団法人　未来かなえ機構

「未来かなえ機構」は、内閣府の環境未来都市事業の一環として、気仙2市1町はじめ関係者のご支援の下、地域の医療・介護・保健・福祉の連携を図り、住民に安心と安全を提供する活動を展開しております。

皆様ご存知の『未来かなえネット』事業とともに、介護予防や医療介護知識の啓発を目的とした『地域介護力アップ』事業にも取り組んでおりますが、今年は地域で関心の高まってきた「認知症」を多様な視点から学ぶイベントを地域で実践しております。

「認知症」は、超高齢・少子・多死社会の最重要課題です。地域全体の理解と温かいサポートが欠かせない、私たち一人ひとりの課題といって差し支えないでしょう。

今回、機構として初めて市民向けフォーラムを開催するにあたり、地元で認知症の人を地域で支える活動に長年取り組んでおられる医師や、全国で当事者目線にたって認知症とともによりよく暮らすこれからの生き方・支え合い方を広げる活動と研究を続けてこられた先生、そして、なによりも認知症当事者の声を直に聞く機会を設けました。

多くの住民の皆様にご来場いただくことを願っております。

演者プロフィール

永田 久美子　氏

新潟県三条市生まれ。千葉大学大学院看護学研究科修了。学生時代から地域や病院、施設で認知症の人と家族を支援する活動と研究を続けてきている。東京都老人総合研究所を経て、2000 年8月から認知症介護研究･研修東京センター勤務。

認知症の人と家族、地域の人がともに安心して自分らしく暮らしていくことをテーマに、認知症の人の生きがい支援、地域に根ざした認知症ケアと人材・チーム育成、市町村ごとの特徴を活かした支えあいの町づくりなどに取り組んでいる。

福田　人志　氏

1962年、山口県岩国市生まれ。長崎県佐世保市の高校(電子工学科)を卒業。大坂北新地の料亭に住みこみ、料理人修行。調理師免許、ふぐ免許取得。
1992年、佐世保市に戻り、テーマパークのレストラン、病院の厨房などで調理師として勤務。2010年、味覚の異変に気づくとともにうつ病を疑われる。
2014年、アルツハイマー型認知症と診断される。
絶望の中から、自分なりに前向きに生きるようになった体験をもとに、認知症の当事者の思いと必要な支援について語る活動や、当時者同士が支え合う活動にチャレンジしている。

佐藤　元美　氏

岩手県千厩町生まれ。自治医科大学医学部卒業後、岩手県立宮古病院、岩手県立久慈病院で内科医として勤務。1992年に岩手県藤沢町に移り、1993年に国民健康保険藤沢町民病院を創設して病院長となる。2005年からは藤沢町民病院事業管理者となり、医療と介護の一体的運営を行っている。
(岩手医科大学臨床教授･岩手県県南認知症ケア研究室会長)

紺野　敏昭　氏

気仙郡住田町出身。こんの神経内科･脳神経外科クリニック(滝沢市)院長。滝沢市を含む、周辺地域の認知症診療を担い、認知症サポート医の育成に取り組むなど、認知症診療の地域ネットワークづくりに注力。行政からの依頼で、医師向け、介護スタッフ向けなど多数の講演会も行っている。
(岩手西北医師会認知症支援地域ネットワーク代表
こんの神経内科・脳神経外科クリニック院長)

秋山　弘子 氏

イリノイ大学でPh.D（心理学）取得、米国の国立老化研究機構(National Institute on Aging) フェロー、ミシガン大学社会科学総合研究所研究教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授（社会心理学）、日本学術会議副会長などを歴任。専門＝ジェロントロジー（老年学）。高齢者の心身の健康や経済、人間関係の加齢に伴う変化を25年にわたる全国高齢者調査で追跡研究。近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりや産官学民協働のリビングラボにも取り組む。超高齢社会におけるよりよい生のあり方を追求。

平成29年度　後期
まちづくりコーディネーター育成講座

前期講座の様子

自分のまちを新しい視点で再発見!!

まちづくりや地域づくりの
基本的な考え方や進め方を学び、
地域資源の活用や課題解決を促す
コーディネーターになりませんか？

地域をもっと良くするヒントが
きっと見つかります。

会　場：陸前高田まちづくり協働センター
岩手県陸前高田市高田町字大隅 93-1
高田大隅つどいの丘商店街 11 号

定　員：各回 15 名

参加費：各回 500 円　※高校生無料

※別途ハンドブック代 500 円（持っていない方のみ）

第1回
10月11日（水）
19:00～21:00
まちづくりの基礎知識
講師：小野寺 浩樹
（いちのせき市民活動センター）

第2回
10月28日（土）
10:00～15:00
話し合いの仕方（ファシリテーション）
講師：三浦 まり江
（陸前高田まちづくり協働センター）

第3回
11月15日（水）
19:00～21:00
事業計画の立て方
講師：三浦 まり江
（陸前高田まちづくり協働センター）

第4回
12月2日（土）
13:00～16:00
広報の考え方とチラシ作り
講師：種坂 奈保子
（陸前高田まちづくり協働センター）

▶ 詳しくはチラシ裏面へ

緊急開催決定！！　～再登校・引きこもり解消を目指して～

親のための不登校・引きこもり解消セミナー

このようなお悩みのお母さんやお父さん、是非ご参加ください。

- 子どもの不登校・引きこもりを解消したい。
- 子どもにどのように接したら良いのか分からない。
- 不登校・引きこもりになってから何年も経っている。
- 心療内科やカウンセリングで思ったように改善しない。
- 生活が昼夜逆転してゲーム三昧、スマホ三昧になっている。
- 子どもが家庭の中で暴力的になっている。
- 子どもが死にたいと言っている。

開催日時 10月21日(土)午後1時～午後3時(終了後個別相談あり)
開催場所 大船渡市カメリアホール　会議室
受 講 料　無料 ※この事業は岩手県の補助金事業です。
対　　象 不登校や引きこもりのお子さんのいるご家庭のお母さんやお父さん
講　　師 NPO法人マザーリンク・ジャパン　代表理事　寝占理絵

申し込み　080-7728-3868、ohisama@motherlink-japan.org

※日程が合わない方、お気軽にご連絡下さい。次回のご案内をいたします。

お子さんの不登校・引きこもりに悩むお母さんやお父さん、不登校や引きこもりの解決は時間が掛かると思っていませんか？そんなことはありません。これまで私たちのメソッドを実践したご家庭のお子さんはスタートしてから一～二ヶ月で、全員が学校に行けるようになっています。中には二年半不登校だった中学三年生のお子さんが、実践を始めて二ヶ月後には「僕、そろそろ学校に行こうかな。」と言って、自ら再登校するようになりました。勿論、不登校になってから日が浅いほど、再登校までの時間は短くてすみます。※精神障害を抱えているお子さんはこの限りではありません。日本全国で不登校は17万人、引きこもりの若者は70万人。不登校から30代、40代に なっても引きこもりのままの若者が多いことが分かります。一人でも多くの子どもたちが人生を取り戻すことのお手伝いをしたいとの思いから、親のためのセミナーを開催し、ノウハウを提供することにいたしました。

何年も心療内科やカウンセリングに通っても効果がなかった、というケースのお子さんでも、この方法で劇的に良い方向に変わります。お子さんの不登校・引きこもりでお悩みのお母さんやお父さん、是非ご参加ください。

不登校・引きこもりは家族で解決することが可能ですが、家族皆で取り組むほうが 効果があります。ですから、出来る限りご夫婦でのご参加をお勧めいたします。勿論、ひとり親家庭のお母さんやお父さんも歓迎いたします。

主催：NPO法人マザーリンク・ジャパン　　後援 東海新報社

平成 29 年度　後期

まちづくりコーディネーター育成講座

受講生募集中！

第 1 回

10 月 11 日（水）

19:00〜21:00

まちづくりの基礎知識

「まちづくり」や「地域づくり」はなぜ必要なのでしょうか。そして、誰がどう関わっているのでしょうか。陸前高田市が持つ資源や課題を例に、基本的な知識を学びます。

講師：小野寺 浩樹
（いちのせき市民活動センター）

第 2 回

10 月 28 日（土）

10:00〜15:00（昼休憩 1 時間）

話し合いの仕方（ファシリテーション）

会議や話し合いに参加して、なんとなく不満が残ったことはありませんか？
参加者みんなが納得できる話し合いの設計や進め方のテクニックを学び、実践を通して身につけます。

講師：三浦 まり江
（陸前高田まちづくり協働センター）

第 3 回

11 月 15 日（水）

19:00〜21:00

事業計画の立て方

地域課題の解決を、様々な人と一緒に取り組むためには、どのような方法があるでしょうか。考えたアイディアを実現するために必要なことを学びます。

講師：三浦 まり江
（陸前高田まちづくり協働センター）

第 4 回

12 月 2 日（土）

13:00〜16:00

広報の考え方とチラシ作り

自分たちの活動やイベントを、たくさんの人に知ってもらうには、どのような方法があるでしょうか。
対象に合わせた広報の方法や、チラシデザインの基本を実践しながら学びます。

講師：種坂 奈保子
（陸前高田まちづくり協働センター）

会　場：陸前高田まちづくり協働センター
岩手県陸前高田市高田町字大隅 93-1
高田大隅つどいの丘商店街 11 号

定　員：各回 15 名

参加費：各回 500 円　※高校生無料

※別途ハンドブック代 500 円（持っていない方のみ）

お申し込み方法　下記の連絡先まで、お電話・FAX もしくは直接お申し込みください。

受講者氏名	所　属
住　所　〒	電話番号
参加希望　第 1 回　・　第 2 回　・　第 3 回　・　第 4 回	

主催・連絡先　陸前高田まちづくり協働センター

〒029-2205　陸前高市高田町大隅 93-1 高田大隅つどいの丘商店街内 11 号

電話番号：0192-47-4776　　FAX：0192-47-4778